

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 こもれば )

事業所番号	0691200042		
法人名	株式会社ユニバーサル山形		
事業所名	グループホームつばさ栄町		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字横道13-2		
自己評価作成日	平成26年 1月 20日	開設年月日	平成25年 3月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 26年 2月 21日	評価結果決定日	平成26年 3月 6日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで話し合い作り上げた事業者理念を事務所に掲示し、朝礼時に全員で唱和することで共有できている。さらに各ユニット目標を掲げ目標達成に向け実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に所属し、年間行事等を通じて地域社会に参加している。又、施設周辺の散歩時や日々の買い物時に交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のホームページやブログを通じ情報を発信している。しかし、ネット環境の整っていない方に対しても理解頂けるようなものを検討していく必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で、地域代表者や家族・入所者代表、市の担当者より意見を頂戴しサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他にも、施設や入居者様の実情など市担当者への訪問や電話などで報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	各職員が身体拘束排除に向けて概ね理解しているものの、グループホームでの立地関係で玄関が車通りの多い道路に面していることもあり、施錠されていることが多い。自施設での勉強会や外部研修に積極的に参加しながら身体拘束排除に向けて事業所全体で取り組んでいく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に向けた勉強会案内は定期的に回覧している。しかし、なかなか参加には至らず職員が積極的に参加できるように勤務状況などを整備する必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内に成年後見制度を利用することを検討している入居者様がいる一方で職員の成年後見人に対する知識についてはばらつきがみられる。外部研修や自施設の勉強会を開催し知識と理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様並びに家族様から不安や疑問に思っていることを個々に意見を頂戴し理解や納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂戴した意見を開示、掲示する機会が乏しく意見を掲示したり意見箱を設けるなど工夫が必要である。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員個々と個人面談を行いながら意見を得ている。面談で上がった意見や提案はユニット会議の議題に挙げるなどして運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個々との面談を通じて評価を行いながら左記の内容に沿えるように努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やユニットリーダーは職員一人ひとりのケアの実際と力量は把握しているものの、研修や勉強会など不十分などところがある為、受講できる環境を整えつつ自己学習も促していく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本グループホーム協会山形支部に加盟し同業者の動向や情報を研修や勉強会に役立てている。又、開設前、法人関係のグループホームへスタッフ全員日替わりで研修を受けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階よりご本人様、ご家族様、担当ケアマネージャーなどから情報を収集し、それから得た情報はフェイスシートにまとめ職員全体で共有している。入所後は定期的にカンファレンスを開催しながら入居者様が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前段階で、職員と計画作成担当者がお伺いをし、ご本人様、ご家族様に話を聞いたうえで要望等を考慮し、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様との話の中から必要としている支援を見極め、必要に応じて関係者と連絡調整を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共に生活する一員であることを自覚しながら、掃除、洗濯、調理などを一緒に行いながら入居者様との関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を面会時や月一回お手紙でお知らせし、又その際にご家族との外出も依頼している。年間行事(芋煮会等)へのご家族様の参加をお願いし、ご本人を共に支えていけるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで利用していた理美容室の利用を推奨しながら医療機関に関してはこれまでのかかりつけ医の受診を行っている。知人、友人の面会についても家族に積極的に面会に来ていただけるように話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席が一緒のご入居者様同士での家事を協力して行えるよう現有能力に応じて出来るご入居者様が出来ないご入居者様に対して補えるように支え合いながら生活できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ転院、転居になった方に対してその後の状況の確認を行いながら、必要に応じて情報の提供と相談を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者様との会話・表情などから状態の把握に努め3ヶ月に1度ケアカンファレンスの実施を行い情報の共有している。その他、月に1度のユニットでの定例の会議を行い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談、入居者様やご家族様から自宅での生活状況や困っていることなどを情報として得ながらこれまでの生活歴など把握しアセスメントシートに記入、全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の生活状況等、職員各々が気づいたことなど情報を共有できるよう申し送り、個人記録、連絡ノートを活用し意識の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月ごとの担当者によるモニタリングやユニットカンファ時に他スタッフからも意見を出し合っている。それらを元にご家族様を含めたカンファレンスを3ヶ月に1回行い現状に即した計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個人記録に記入。気づきや重要事項等については申し送り、連絡ノートを活用しながら情報の共有を行っている。また、アセスメントシートやモニタリング表でケアサービスの評価、検討を行い計画書の見直しと改善に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のビアパーティーや地区のお祭りに参加している。その他、スーパーや馴染みの理美容室への外出、公園や神社への外出を定期的に行っている。入居者様一人一人のこれまでの生活との係わりが途切れないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続した受診を基本とし、医療機関と家族との情報共有関係の構築を行っている。日々の暮らしの近況や状態の変化については適宜家族に連絡し、受診時は情報シートに記入し主治医への報告を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノート・入居者様個々の受診記録を活用し連携の訪問看護、ホームの看護師と日々の情報共有を行っている。特変や外傷など緊急性を要した際には、早急に報告、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった際は、介護サマリーや情報提供書などを作成し情報提供を行っている。又、入院後も定期的に状態確認を地域医療連携室協力の下行い、退院時もスムーズに入居して頂けるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	心身状態の重度化に伴い入居生活継続困難時の対応として基準を設け玄関に重要事項の掲示、契約時に説明している。入居者様やそのご家族様の希望を伺い事業所で行える医療行為等については適宜説明している。又、関係医療機関にも同様に説明し支援して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にAEDを設置し、講習会開催して操作方法を確認した。今後も急変や事故発生時のマニュアルを基に定期的な勉強会や訓練を行っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様にも参加して頂く避難訓練を定期的に行っている。消防署から職員に来て頂き訓練指導を受けている。地域の協力体制については今後の課題である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にプライバシーの保護を念頭に置きながら日々の生活支援にあたっている。時折、配慮に欠ける部分がある為、職員一人一人が利用者に尊厳をもって接する事を再認識する必要がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の言動から、個々の希望や思いを把握し、自己決定の機会の創出や出来る限り意向を反映しながら支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースに合わせた支援に努め、入浴時間や外出など家族の意向など踏まえたうえで可能な限りご本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的な買い物やご本人の馴染みの理美容室への外出支援を通し、個々の意向に沿った支援をご家族様や地域の協力を得ながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食・職員と入居者様が共に調理を目指し実践につなげている。又、入居者様の個々の状況に合わせた調理や配膳、後片付けを行っている。メニュー作りの際もご本人の好みのものを取り入れたり、外食出前なども時折利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の状態に合わせた食事形態での提供を行いながら、食事摂取量・水分摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを習慣的に実施。なるべく本人の出来る事は自ら行っている。義歯の洗浄等は夜間帯洗浄剤を用いながら保清を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用を行い、入居者様個々の状態に合わせた排泄支援を実施している。入居当初はリハビリパンツを用いていた方が現在では綿パンツを使用するまでに至った事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・食物繊維を多く摂ることを推進しながら、散歩や軽体操を毎日実施している。それでも快便に至らない方に関しては医療機関に相談したうえで下剤の調整内服をいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の身体状況を考慮しながら、一般浴槽と機械浴槽を使い分けしながら入浴して頂いている。ご本人の意向に合わせた入浴支援を目指している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの個々の生活歴などの情報収集を行ったうえで、尚且つご本人の疲労感や夜間の睡眠状態を勘案し、午睡を促したりもしている。また、夜間帯の照明や室温、寝具等にも気を配り安眠出来る環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報書を個人ファイルに綴り、保管している。個人個人の病状や既往歴、薬の効能等について理解するように努めている。服薬に伴う、状態変化等については薬情報書を確認しながら連携の看護師又は、主治医に相談しながら状態変化の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味、嗜好に合わせ、畑仕事や読み物、買い物、炊事、散歩、外出等を個々の能力が出来る限り発揮できるようにしている。外出や買い物、散歩等で気分転換が図れるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、近所の散歩等日常的な外出に加え、初詣、紅葉狩り、お花見や地域の夏祭りへの参加などご家族様に参加してもらえることに関しては積極的に協力を仰ぎながら入居者様個々が外出を楽しむことが出来るように働きかけている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向や、金銭管理能力等考慮した上でご家族様の同意を得て、金銭を所持している方もいる。金銭管理についてはトラブルになることも懸念されるため、少額の金銭所持にとどめ、日用品や嗜好品の購入に使っている。定期的金銭の使用等に関しては金銭管理台帳を用いながら定期的使用状況をご家族様に報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望とご家族様の意向等を勘案しながら、ご家族様や友人、馴染みの人との電話のやり取りを行っている。手紙のやり取りについては実践に繋がっていないがご家族様や友人との年賀状のやり取りは行った。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内にある菜園を眺められる東屋で休まれたり、室内ではテレビやソファを配置し壁に季節感を味わえるような飾りや写真を貼っている。又、エアコンや加湿器、湿度計を設置フロアも白熱灯にするなど快適に過ごせるよう努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の面積的な問題もあるが、入居者様同士の相性を考えながら食席を変更する等工夫を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、自宅で使用していた馴染みのものを持ってきてもらうなどご家族様と協議しながら居心地良く過ごせるよう工夫を行っている。ご家族様、友人との写真を飾るなどして居心地良く過ごせる工夫を行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどに表記を行ったり、入居者様が分かりやすいようにしている。			